

会議録

| | |
|----|---------------------------|
| 件名 | 第9回 軽井沢未来構想会議 |
| 日時 | 平成26年3月11日（月） 13:30～15:30 |
| 場所 | 軽井沢町役場 |

軽井沢町：

軽井沢ランドデザインも佳境に入って参り、今後は具体的に詰めていく段階です。軽井沢町、町長の想いを含めて一つ一つ形をつくっていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。

3月の議会にて代表質問が来ています。2月の全員協議会（議会）の際に軽井沢ランドデザイン像の中間報告という形で議員の皆様にお示しをしました。まだ途中段階だという点についても説明しておりますが、内容が分かり難いとの意見があがっておりました。代表質問に対する答弁書を配布しております。町長の想いが含まれている事をご理解してお願いいたします。

軽井沢ランドデザイン像代表質問に対する答弁書（軽井沢町）

中村委員長：

5頁目の後半に「商店街や別荘地、農地の活用や若者の集まる方策」とありますが、これはエリアデザインが核となるものです。まだしっかりとしたイメージが出来ておりませんが、今、私が提案しております「風土文化アカデミー」の事を意識して記載して頂く方が良いと思います。特に若い人を中心とした集いのサロンの場所をつくり、未来像を語り議論しながら、食文化を発展させる様な、公民館機能の未来版を考えている。意識してもらえたらと思います。



横島委員：

そのお答えを含めて事前に御断りをしておきたい事があります。本日のこの会議は極めて変則的であります。議会答弁に他の人の意見が入る事はあり得ない事で、問題になる事です。その事をご理解もらい、町長サポートとご認識して頂きたい。中間報告という素案段階で議会側から答弁を求められ、応えざるを得ない状況はフライングです。しかし、フライングをせざるを得なかった事は、町の立場としても止むを得ない状況だったと思います。この2つ要件を事前にご承諾頂かなければ、今日の会議は成立いたしません。中間報告の素案の素案段階でのたたき台が外に出た自体が不満ではありますが、質問に答えざるを得なかったという経緯も十分理解できます。全員協議会は本会議とは違い、決定権のない議会であり、勉強会の様な会であります。参考として中間報告をした次第です。中間報告を聞いた以上は、本会議にて質問をせざるを得ないという議員側の職性もございませぬ。それらの経緯から出てきたものが本日の質問書と答弁書になります。前提をご理解して頂き、それを是として頂いた上で、本日の議論をお願いしたいと思います。

事前に出てしまっている程、町議会側が興味を持ってきています。外からのリクエストが出てくる事は歓迎すべきファクターと同時に、中間報告の素案段階では雑音にもなりかねない事もあると思っています。この辺りも第3の特殊性としてあるのかもしれませんが。

広報かるいざわの3月号に記事を掲載しております。中村先生のご心配もございましたので、ここでは「アカデミー」という言葉は使用せず、「文化的サロン」という言葉で匂わせています。まだ町民側に言える事と言えない事があり、言える事としてはこの程度しかないと判断しております。しかし、町民に対してのPRはしておりますし、議会側から間接的にPRが進む事も考えられます。言ってみれば、今までの研究室の様な会議が少し広義の場に出てきたという姿勢になっている事を捉えて、今日の会議に臨んで頂ければと思います。

管楽者の中村桂子さんがベートーベンの楽譜は論文であると言っております。我々は楽譜を書いた段階で、それはほぼ出来たと言えます。次にそれを分からせるためには演奏家が必要であり、これからは演奏家にかかってくる事になるわけです。次は誰を演奏家に選んで、指揮者を選んで町民の耳に届けるのかという事になるかと思えます。演奏技術（展示技術）の役割へと進んでいく段階に来ていると思います。この様な検討の端境期に議会の問題と絡んでしまい、議論が輻湊しておりますが、その整理も必要かと思っています。

この様な理由から、本日の会議の司会は私が務めさせて頂きたいと思えます。中村先生には論文の執筆者としての想いを存分に述べて頂きたいと思えます。小野寺さんの方には、演奏家（コンダクター）としての想いを述べて頂きたいと思えます。そのイベントのPR係であるUDCさんにも想いを述べて頂き、中間報告の仕上げ段階としての足並みをまとめさせて頂きたいと思えます。

中村委員長：

ここに記載されている質問内容は、3月議会に提示されるという事でしょうか。

横島参与：

これから出ます。提示しない方が良い内容やむしろ提示した方が良い内容については、直接、町長にぶつけて頂き、町長の個人的な解釈という理解で協議して頂ければと思います。こうあって欲しいというお話はして頂いて良いかと思っています。

藤巻委員：

全員協議会にて説明致しましたが、議員の皆様様の反応をみて危険だと感じました。このグランドデザインについて関心が高いのですが、議員に対しての情報が少ない状況です。最終的に完成した段階で、反発がくる事が怖い感じがします。情報を小出しに説明していきたくと思っています。ある程度は伝えておかなければならないと思っています。まずは1回目として全員協議会で説明したが、内容の理解が難しい状況でした。様々な意見は出ましたが、一歩前進はしたと思っています。今後もある程度は情報を提示していきたくと考えています。

横島参与：

説明時の材料は、事務局で作成して頂いたA3資料「グランドデザインのフローチャート」です。3月24日には中間報告としてオフィシャルにPRしなければなりません。もう1ヶ月もない時期となっていますので、本日会議の主題はとして、中間報告をどの様に提示するのか、どう程度の分量にするのか、どの様なデザインにするのか、について議論していきたくと思っています。加えてまとめ方の役割分担も必要だと思っています。中村先生の想いの補充を伺ってから議論を進めたいと思えます。

軽井沢グランドデザインデザインイメージ（事務局）

軽井沢町（依田課長）：

東長倉村は旧軽井沢町であるが範囲に入っておらず、西側も薄くなっています。

事務局（小野寺）

西と南部分については、拡充する方向で整理します。

横島参与：

吉田初三郎の絵には、新幹線や木もれ陽の里、大賀ホールといった施設が入っていません。アイデアとして良いが、古い絵にキャッチコピーをのせただけという感じになってしまっは損です。著作権は切れていると思いますが、中身は書き換えた方が良いと思います。



事務局（小野寺）：

勿論、吉田初三郎の絵をベースに新しく書き換える予定です。

横島参与：

そうであれば、依田課長の心配は一掃されるわけですね。

事務局（小野寺）：

浅間山をバックとした構図は変えずに、中軽井沢を中心にして西と南を入れる方向で整理します。

横島参与：

現代性を考えると、碓氷峠の高速道路も入れて欲しい。細かい事でいえば、しなの鉄道、新幹線を車両台数の検討を含めて加筆して欲しい。説得力が出ると思います。

キャッチフレーズは全体的に長すぎる印象です。半分くらいの言葉（一行フレーズ）の方が切れ味は良いと思います。

中村委員長：

この言葉の削り方や見分け方については判断しますが、最終的には横島先生に見て頂ければと思います。

横島参与：

100年前の吉田初三郎の絵を連想させながら、100年先を想像させる役割ができるのであれば、良いアイデアです。

社会インフラや別荘、マンション、住宅のインフラを入れ込むのか、何を割愛し、何を詳細に入れるのかについては、フィロソフィーを含めて大事な要件となります。ご意見があれば、現段階で議論しなければ間に合わない。軽井沢にはマンション別荘が多く存在する。あるという事実は免れないが、多くあるからといって多く描く事にはならない。例えばイラストの中に3階建の別荘マンションを入れるか、入れないかの判断が必要となる。多少入れても良いが、歓迎していると思われても困る。その辺りの取舍選択は非常に難しい。

事務局（二井先生）：

吉田初三郎の絵の特長は、非常に遠い所まで描かれている所です。右側ですと至る青森、左側ですと

至る名古屋まで描かれています。軽井沢がどこと繋がりを持ちたいのか、軽井沢周辺との関係も描かれれば良い。

藤巻委員：

遠くまで描く事で、軽井沢の国際性も表現できたら良い。

横島参与：

このランドデザインの絵は、教材にもなります。小学校3年生くらいの社会科授業で、先生と子供たちがこの絵を見て考える教材となって欲しい。何を入れ込んで、何を排除するかを取捨選択は、教科書づくりにかかわるくらい重要なファクターと考えます。

軽井沢町（依田課長）：

新幹線は、開通する北陸新幹線の富山から金沢だけでなく、その先の大阪まで入れる必要があります。

事務局（二井先生）：

絵は入らないと思いますが、「至大阪」と言葉のみを入れる事はあり得ます。

藤巻委員：

町の方が見て、変化が感じられない事のない様にする必要があると思います。将来イメージとしてどのような新しさを盛り込むのかは重要と考えます。コンパクトシティとして集約した町が表現出来れば良い。

中村委員長：

日本海も入れた方が良いですか。

横島参与：

太平洋は、上信越道、関越道、東海道もありますので、意識としてあります。北陸新幹線で直江津まで入りますので、日本海が見えても良い。

事務局（二井先生）：

モノクロで分かり難いが、吉田初三郎の絵にも海は表現されている。

事務局（小野寺）：

西と南は広げる方向で進めます。

中村委員長：

西側が広がるのであれば、日本アルプス越しに海が見える感じが良いと思います。

吉田初三郎の絵は一つの宇宙の様に感じます。

事務局（二井先生）：

場所によっては世界の他国まで含んで描いているパターンもあります。魚眼レンズの様に横方向に伸びるにつれ歪みが大きくなる手法の様です。

中村委員長：

キャッチコピーは形式的に張り付けたのみです。実際に何を行うかは決まっていますが、考えつくものを絵の中に配置しています。絵とキャッチコピーで軽井沢風土自治圏とは何かを答えるつもりでいます。町長さんが「不易流行」とおっしゃいましたが、100年後の言葉の意味を長時間的な人間価値、いつの時代も変わらない形として念頭に置いてキャッチコピーを考えたいと思っています。

キャッチコピーは、軽井沢全体に通用するキャッチコピーと個別の課題に通用するキャッチコピーの2つに分けています。やり方としては、1行コピーを原則に短冊状として絵の中に散りばめるやり方が一番良いのではないかと考えています。余分な言葉をどんどん削っていく事も必要であるが、まだ見落

としている部分があると感じています。何に焦点を当てるのか、まだ明確になっていません。入れ込めていないもの等については、どんどん意見を出して欲しい。

現在のキャッチコピーは、過去の歴史基盤を引き継ぐ軽井沢イメージをそのまま将来に投影する形として、時間に関しては意識して作成していたつもりです。スポーツに関してはどう盛り込んで良いのか、まだ明確に分かっておりません。18番（図面では15番）にスポーツに関するキャッチコピーを入れてありますが、コミュニティを繋いでいく形でスポーツを取り入れたいという意思で書いています。エリアデザインの中に具体的なものが入ってくるので、全体の中に張り付けるものとしては難しいとも思っています。

ざっと見て頂いて分かるように非常に雑多な事も様々に記載しておりますが、基本は、五原則と複雑に絡み合いながら出てきた言葉であります。現段階では議論する土台として題しています。焦点が違うのであれば、ご意見を頂きたいと思っています。

横島参与：

キャッチコピーの数が多く感じます。ここから先は切り捨てていく方向が良いと思います。町民に説明がつく範囲にまとめあげていく事、仕立て直しが逆に必要なのではなかと思います。本論文を中間報告で提示するのについても迷っています。中村先生の論文と委員会が認めた報告書は、落差があってしかるべきだと思っています。その落差の範囲を決めておかなければ、落とし方が決まりません。

中村委員長：

いわゆる論文と称するものは、最後に提出する成果報告書のなかにテクニカルレポート的に入っていれば良いと思います。

横島参与：

優しく書き直すという手法と要素を落とす手法の2つが、ない交ぜになって簡略化ができると思いますが、どちらかでしょうか。中村先生のレポートはほぼ完成形になっています。

中村委員長：

私の書いたレポートは、テクニカルレポートとして報告書に入れて頂ければと思います。町民向けには、ここから要素を抽出する方向で良いと思います。

横島参与：

ここからは提案ですが、中村先生のテクニカルレポートを絵にする事が小野寺さんになるかと思いますが、その中間として町民向けの中間報告のまとめをudcの方で作成、翻訳して欲しい。如何ですか。

事務局（護）：

二井先生、よろしくお願い致します。二井先生如何ですか。

中村委員長：

私は、手を入れて頂いて一向に構いません。

横島参与：

中村先生が書かれたものは、勿体ないくらいのレポートですが、読む相手が町民ですのでご了承頂きたい。

中村委員長：

仮に翻訳したとしても、質問が来た方の様に期待しているような分かり易い将来像が提示できるかは心配です。今までの都市計画の様な分かり易い内容を期待している方から見ると、これを分かり易く翻訳したとしても満足するかどうかは疑問です。この作業は法定の都市計画とは違う事を理解してもらう

事が必要です。また、ランドデザインは、ここで固定化すべきものではなく、これに基づいて、町民の方々に引き継いで議論してもらう一つのイメージみたいなものです。翻訳したものが優れていても、満足してもらう事は難しい。どの様に提示するかは検討する必要があると思います。

横島参与：

まちづくりデザインという言葉を使うとすれば、そのデザインは形や色、調和等になるかと思います。100年先のデザイン構想は、フィロソフィーがなければ出来ないわけです。そのフィロソフィーを確定した上で、具体的に手法として落とししていくのだと思います。その大提案としてのフィロソフィーは中村先生に書いて頂きました。その後、フィロソフィーを分かり易く解説する翻訳して頂く事が必要であり、udcにお願いする仕事ではないかと思っています。中村先生の思想から離れる事はないと思います。しかし、違う言葉や分量で、違う編集で編み直してはどうかと考えています。フィロソフィーの大切さをどう町民に理解してもらうかについては、先生ご自身では書きにくいのではないかと思います。

中村委員長：

我々がやろうとしているテキストが今までの都市計画と違う所は、住んでいる人間とは関係ない客観像を描く事が目的ではなく、住んでおられる方ご自身や子孫の人間像、自然像に変わっていかねばなりません。これからの日本の将来を考える都市計画は、住んでいるご自身がどう価値観が変わっていくのか、自分達の問題として自分達で描けるようになるかが重要となります。その事が果たして上手く伝わるかどうか、分かってもらうためにどうすれば良いかという問題があると思います。

横島参与：

その時に、軽井沢アカデミーの重要性が出てくると思います。共に学び、町民自らが価値観を理解し、そのために自分ができる事は何かを特定し、外の力に頼る事なく、自らの力を出す場所を正しく發揮してもらわなければ成り立たない事を、時間をかけて学ぶ必要があると思います。

中村委員長：

その様な事を報告書でどこまで書くのか。軽井沢には軽井沢夏期大学という後藤新平さんが日本将来計画として提案したのがあります。軽井沢では可能性があると考えて作られたものですが、それが大正7年から現在も続いています。私はその事に非常に衝撃を受けました。これを拡大していけば、なんとかなるのではないかと考えています。ここまで勉強してきた事を本格化する事は良いと考えています。

横島参与：

正にその通りです。私が拘るものはスポーツです。スポーツ分野をアカデミーの第一ファクターとして載せてみたいと思っています。ある種のケーススタディとして、スポーツが地域を結びつけ、国と世界を結びつける様なスポーツメッカとなる事を考えています。どの様な事を実施すれば、軽井沢にスポーツとスポーツメッカとしての拠点性が生まれるのかという事を、軽井沢で考えてみたいと思っています。これをケーススタディとしながらアカデミーを展開し、その力を持ってそれ以外のファクターも勉強していく、それが100年先のまちづくりのベースとなる手法が良いと思います。これは中村先生のレポートの中に出てきたものですが、それをスポーツの場に変えていきたいと考えています。

中村委員長：

スポーツは非常に重要な要素だと思います。後藤新平さんのなかにはスポーツはなかったが、スポーツを軸として考える事は我々の新しいアイディアとなります。スポーツの技術等だけではなく、身体との関係についてもアカデミーの中に入れて頂ければ良いと思います。この様な考え方が上手く伝われば良いと思います。

横島参与：

やはり、翻訳は第3者が書いた方が客観的に導ける場合もあります。

今後、パラリンピックが出てきます。それぞれの特殊な世界の中で競技を行っています。障害スポーツのメッカという訳ではないですが、軽井沢にパラリンピックセンターがくる話が出てくるかもしれません。パラリンピックで重要な事は移動です。選手が集まるためには公共交通か車になりますが、軽井沢は日本で一番恵まれる場所になります。この様なことを含めると、具体的なアカデミー性、研究材料になると思います。

中村委員長：

是非、やって頂ければと思います。表現の仕方として、絵だけではなくシステムの場合はどの様な形とするのか。風土アカデミーの組織の提案等は何の様にとり扱うのか。やはり、解説書が必要になるのではないかと考えています。

横島参与：

農業の問題等の様に解説が必要な物は幾つかあると思います。

中村委員長：

やはり、システムの説明はやらざるを得ないと思います。

横島参与：

議会で分かってもらう事は難しい。これから皆さんとアカデミーで考えていく事を記載する方向が良いと思います。

中村委員長：

風土アカデミーや文化サロンは、その内容を追求していく過程でコミュニティが形成されるかどうか重要である。答えがすぐに出る事ではないし、出なくても良いと思っています。

事務局（二井先生）：

これまでの都市計画で出来なかった事は、風土文化自治権で書かれていると思います。今までの都市計画は、ある程度のまちの方向性を決めプランニングを行いますが、基本は空間ベースです。空間をつくる事はある時期にお金を投入すれば出来るのですが、そこで生まれてくる活動までどうするのが一番問題だと思います。この時点での議会対応をどこまで行えば良いのかの感覚は分かりませんが、今までの中でエッセンスを抽出するのであれば、風土自治権が一番大事な所ではないかと思っています。それを実現していくものとして、中村先生が3つのデザインの方向を挙げられており、それプラス具体的な場所が出てくるのだと思います。しかし、この中には様々なキーワードが入っており、文面で逐一説明した場合、要素が一つになっていかない気がします。非常に多くの要素が入っているので、この辺りをどうするのかは難しい。

横島参与：

中村先生の発想が、泉のように湧きすぎているところもあると思います。ただ、風土自治圏が絶対的な柱である事は間違い無いと思っています。地方自治のあり方論の答えまで一緒に出しても良いと思います。

事務局（二井先生）：

正に中村先生がおっしゃるように、これからの時代は、自分たちの町のあり様は自分たちが責任を持つという事だと思います。その時には行政が手放さなければならない所も出てきますし、逆に住民がやらなければならない所も出てくると思います。この様なことを実施しようとしている自治体もありますが、

まだ実施できている自治体はない状態かと思います。

中村委員長：

今までの日本の都市計画は、専門家が描いて住民は手を出さないものでした。その様に思い込んでいた住民がほとんどであるが、人に絵を描いてもらう時代は終わっており、自分達でやらざるを得ない時代になっていると思います。

事務局（二井先生）：

スケジュールイメージに関連するが、この100年プロジェクトの中には軽井沢をどうするかという課題があり、その中には自治の問題が入ってくると思います。先程中村先生が言われた通り、今までの多くの自治体のやり方は、専門家がまとめた行政としての大枠ができたものが地元での説明会等でおりにいく方法だと思います。ランドデザインの方針はともかく、各エリアデザインは、決まりすぎた状態で地元におろしてしまうと、自分達でやるべき所があまりなく、自分達の意見を聞いてもらえる場もないという事になってしまう。あまり決まった状態で地元に落とししてしまうと、後は役割分担のみになってしまうのではないかと心配に感じます。各エリアのたたき台は出すが、その先は、ワーキングやワークショップで練っていく進め方もあるのではないかと思います。自治を過程で育てる事が重要だと思います。

軽井沢町（依田課長）：

長期振興計画でワークショップという形をとって進めましたが、ある場所ではまとまらずに空中分解してしまいました。最終的には意見を吸い上げつつまとめましたが、やはり、一般の方が入ると1年2年やってもまとまらないのではないかと思います。町長が就任し、都市デザイン室が出来た時から、実際は50～100年後の計画を立てても理解してもらえないのではという意見が出ていた。そこで、議会や一般の方にも分かり易い「教科書」として、絵で表現して提示して欲しいという事が今回の依頼です。行政の力だけでなく、住んでいる人の力で町が変わる「教科書」を作成したい。今から住民の意見を聞いて仕上げていくには時間がないと思います。11月末には形としてまとめて欲しい。

事務局（二井先生）：

誤解がないようにしたいと思います。方針の話ではなく、各エリアデザインを実際に進めるにあたっての話です。例えば、大槌町での復興計画では、コーディネーターをさせて頂いており、他の設計事務所とプランを練っております。もちろん専門家としての案は持っていますが、実際はその案を説明して、この案を進めますという訳にはいきません。町全体という議論ではなく、各エリアを実際に検討していく際には、具体的なプランを介しながらワークショップという形で中身を決めた方が良いと思っています。このプロジェクトとどう絡めていくかは検討が必要だと思います。

軽井沢町（依田課長）：

このプロジェクト内で行う事は、時間的にも不可能だと思います。

事務局（二井先生）：

今すぐにやらなければならないという事ではなく、自治の話はどう拾うのかという問題はあります。

中村委員長：

文化サロンの様に、何十年かけて検討する場所をつくる必要はあると思います。ランドデザインだけでなく、各エリアデザインについても11月までにまとめる必要はありますが、風土自治権を検討する場を構築し、自治について検討するトレーニングする場をつくる必要はあると考えています。

軽井沢町（依田課長）：

夏期大学に繋がる様な形で考えて頂ければと思っています。

中村委員長：

夏期大学の町内版で良いと思います。しかし、講座の様なものだけでは辛いので、新しいスポーツの仕組みや食文化問題等を考える事も取り入れる事ができたらと考えています。これも11月までという事ではないです。

藤巻委員：

50、100年になると予想もつかない部分も出てきます。将来に託す部分として未完の部分があっても良いと思っています。将来の人たちが色づけをして仕上げていく考え方があっても良いと思います。

住民の方たちの考えも時間に伴って変化していくと思います。復興計画図の様な図がばっちり出来るのではなく、1段階、10年後の2段階という様に変化に対応できる余地を残す事も考えられると思います。

中村委員長：

長期間かけて検討していく方が良い場合もありますが、エリアデザインの中には、東京オリンピックまでの5～10年の間で完成させた方が良いものもあります。エリア毎で考え方を整理していけたらと思います。

横島委員：

長期振興計画では具体的な案も入っていますが、もう少し長い目（50年後）で見たモデルがエリアデザインになると思います。それを教材にしながら、より長いまちづくりを考えていきたい。それには、ただ呼び掛けるだけでは形が整わないので、自治圏構想を一つのテーマとしながら皆で考えるアカデミーとして呼び掛けていく方向としたい。最後に一言で言うならば、「100年後の町は皆でつくる」だと思います。50年、100年で切った言葉となっているが、50年、100年で仕上げなければならない事でもありません。融通無碍で良いと思います。想いを込めて仕掛けた時に出てくるまちの賑わいが、これからの本当の都市計画ではないかと思っています。それを皆が理解する必要があり、この辺りがこの計画の肝になるのではないかと思っています。中村先生の恩著は日本のどこにもないものであり、長い時間をかけて住民が考える都市計画（まちづくり）、計画自体が成長していく事は、どこにもない新しい形だと思っています。

中村委員長：

中軽井沢の駅前については簡単にまとまらないと思います。しかし、湯川ふるさと公園は思い切った絵を描いても、様々な意見は出るかもしれないが反対意見は出ないのではないかと期待しています。都市公園なので勝手な事が出来ないという制約はあるが、下地はあるので金銭的にも負担にならないのではないかと考えています。これから説明もありますが、旧軽井沢にある小さなプロジェクトは早くやった方が良いと思っています。

それでは、具体的なエリアデザインについて説明して頂きたいと思っています。よろしくお願いします。

軽井沢エリアデザインイメージについて（事務局）

【風越地区について】

軽井沢町（依田課長）：

勤労者体育センターを総合体育館として建替え予定であり、その脇に駐車場も計画している最中です。新年度の予算に入っているので、前提として欲しい。

事務局（小野寺）：

各スポーツを繋げる様なクラブハウスの機能は欲しいと考えています。現在、街角広場を設けており、これがアイスパークとの繋ぎになるイメージを持っています。

軽井沢町（依田課長）：

都市公園としての規制はあるが、利用者からは食事する場所が欲しいという意見が挙がっています。

事務局（小野寺）：

規制はあるが、現案として、軽井沢オリンピック記念館をリニューアルし、カフェの導入や植物園の一部を外部に見せる様な形として提案しています。

軽井沢町（依田課長）：

オリンピック記念館は建築基準法等で窓を設けられないとなっています。

中村委員長：

町民の活動の拠点となる場所は必要と考えます。場所については検討の余地がございますが、カフェ＋休憩所を兼ねたクラブハウスの施設はあった方が良く考えています。

横島委員：

このエリアは様々な新しい要素が入っており、空間デザインがなされていない状況である事は確かです。急ぎで作らなければならない施設もあるので、全体バランスだけでは答えはでないかもしれないが、一度全体を見直す必要はあると思います。

軽井沢町（依田課長）：

少し場所が離れますが、直売所の計画もあります。まだ具体的な絵が決まっているわけではないが、飲食を含めた六次産業的なものを予定しています。

事務局（小野寺）：

いずれにしても、直売所とは一体的に繋げ、スポーツをしたついでに直売所で買い物ができるになれば良いと思います。

軽井沢町（森室長）：

遊歩道でつなげる事は可能かもしれません。

中村委員長：

現案だと風越山が十分に活かされていません。下からだと浅間山も見えませんが、どの様に取り込むか、有効に活かす提案をもう少し検討したいと思っています。



横島委員：

町側の計画もありますが、現在決まっている計画を前提にしつつ、最良案をレイアウトして頂ければ良いと思います。大胆に案を作成して頂いても構いません。その案をもとに出来る事を拾っていく議論ができればと思います。このエリアは「南地区」であり、風越スポーツパークだけではありません。エリアの共通認識も必要かと思います。

中村委員長：

アイスパーク周辺は、あまり人影がない様に思えたが、利用は多いのでしょうか？

横島委員：

スケートリンクは夕方からの使用が多いです。

中村委員長：

直売所は、このエリアの重要な施設になります。一体的な計画とするために、入口等や施設の向き等の注文は可能でしょうか？ただ直売所やレストランをつくただけでは人は来ないと思います。周辺の緑地を含めて軽井沢ならではの施設とする必要があると思います。

横島委員：

直売所からレストランまで遊歩道をつくり、ランニング等ができる様にしても良いと思います。

事務局（小野寺）：

歩道を拡げて、遊歩道と自転車道をつくりスポーツ施設と繋げる事も可能です。

中村委員長：

直売所の計画はどの程度進んでいるのでしょうか？

軽井沢町（依田課長）：

3月末にプロポーザルを行い、平成26年度に基本設計と詳細設計を行う予定です。

中村委員長：

直売所の名前は、良いネーミングを考えて頂ければと思います。

軽井沢町（依田課長）：

直売所は仮ですので、名前は検討したいと思います。

【中軽井沢地区について】

軽井沢町（依田課長）：

町民も湯川沿いに星野エリアまで繋がる道が欲しいという意見が出ています。しかし、今までは県からの許可がとれませんでした。役場前やのバイパスの南側等は渡れる様に橋があればと思っているが、これも県から許可されませんでした。

横島委員：

例えば、冠水橋の様な形もあるのではないのでしょうか。

事務局（二井先生）：

県の許可が難しいのであれば、役場前は既に多くの橋がある事からしても、橋脚は建てない案の方が良いと思います。運動公園への渡しは、横島参与が言われている様に、場合によっては流される橋、外せる橋等で県に説明ができるやり方を検討する必要があると思います。

軽井沢町（森室長）：

沈下橋等も調べましたが、現橋を保存している所はあるが、新たに創っている所はなく、河川の許可

は難しい感じです。飛び石も検討しましたが、雪で滑る危険性もあるので、なかなか形になっていない状況です。やはり、可能性があるのは、大水の際にも問題がない水面から高さがあるしっかりとした橋になるのではないかと思います。

中村委員長：

河川管理者との協議が前提であるが、時間がかかる方法とかからない方法があるかと思っています。

事務局（小野寺）：

高知にある丸太を束ねただけの「潜り橋」は、片方にロープが付いており、大水の時には簡単に流されるが、水が引いた時にはロープを引っ張って、引き上げる事が可能です。非常に単純な形態ですが、意外に河川災害は起こしていません。流れないので、再利用もできるという利点もあります。

中村委員長：

京都の場合は、本来急流であるが、小さな堰をつくって流れをコントロールしています。軽井沢も流れが急であるため、堰をつくる等で流れをコントロールする必要はあると思います。アイデアはたくさんあります。自治体側も都合もあるので、交渉のネタとして提案だけでも作成しておいた方が良いと思います。

事務局（小野寺）：

中軽井沢の駅前通りや商店街から手をつけてまとめる事は難しいため、湯川を軸線として左岸の軽井沢町役場までの連携を考えつつ周辺の空間を再構成する方に力をいれる事を考えています。湯川周辺を新しい中心として、まちを再稼働させる事も考えられるのではないかと考えています。その様な絵を起こしてみようと思っています。

横島委員：

まちの機能を見直さなければ、その発想の転換はできないと思います。商店街の復活という機能を入れる方針で進めるのであれば、今の方向性は変えられない。商店街の復活ではなく、生活者の新しい拠点として、アカデミーの設置や行政センターとの連携を考えていく方向を明確にする必要があると思います。方針の置き換えをする事の意味統一が必要になると思います。

湯川を含め、河川全体を特区として、規制をゆるめてもらう事も考えられるのではないかと考えています。

中村委員長：

じっくりと議論すれば、特区でなくでも大丈夫ではないかと思っています。

【旧軽井沢地区について】

中村委員長：

ユニオンチャーチの前の小さな建物は無くなったのでしょうか？新しい建物を建設する等の予定はあるのでしょうか？空いた土地に新しい建物が建ってしまったら現案が成り立たなくなってしまう。

軽井沢町（森室長）：

日本語学校の建物があった所ですが、新しい建設計画は聞いていません。現実的になりますが、駐車場の収益が資金源になっているところもあります。駐車場の拡幅になるのではないかと考えています。

中村委員長：

駐車場については別の場所に移転補償してもらい、裏側にある公民館と教会前広場を一体的に計画できないかと考えています。

軽井沢町（森室長）：

公民館の建替えの話があるならば、周辺の見直しもあるかもしれない。昭和 30 年に建てられた病院を公民館として活用しています。

中村委員長：

公民館の建替えの話があるのならば、教会前広場と一体的に検討する事は可能でしょうか？今まで、公民館にカフェを併設して欲しい等の要望はありましたか？この辺りにカフェが出来ると良いと思います。

藤巻委員：

旧軽井沢の公民館は文化財程の古さを持ち、規模もかなり大きい建物です。

中村委員長：

土地も軽井沢所有なのでしょうか？

藤巻委員：

建物を建替える際には、町で建築費をだすが、土地は各区に提供してもらう事になります。旧軽井沢の方が建替えを希望しているが、土地については町で出す事ができないので、現状のまま使用している状況です。病院を活用しているので、公民館としての機能としては規模が大きい状況です。建替えとなれば、規模は小さくなるかと思えます。建築年数が経っているので、いずれは建て替えが必要となってくると思えます。

中村委員長：

ユニオンチャーチの文化財指定の予定はあるのでしょうか？

藤巻委員：

現在、文化財の指定はありません。

横島委員：

所有者に文化財指定の意思がない状況です。

中村委員長：

重要な建物なので、交渉する必要があるのではないかと思います。

横島委員：

大幅な変更等が生じる前に、守っておかないと良くないとは思っています。

中村委員長：

旧軽井沢地区はオリンピックまでに形になればと考えています。銀座通りは、観光会館や郵便局はあるが、その他に歴史的な面白い建物が少ない事が気になっています。

藤巻委員：

テニスコートのクラブハウス等も歴史的な建物であるが、表通りからは離れています。

軽井沢町（依田課長）：

聖の軸は何か整備が必要になってくるイメージでしょうか？

事務局（小野寺）：

舗装整備（石畳）、照明を設置する等の街路整備は最低限した方が良くと考えています。特に街角や広場の入口付近は特徴づけが必要だと考えています。

軽井沢町（依田課長）：

やはり、横の道（聖の軸）に関しても普通の整備だと意味がないと感じます。

中村委員長：

工夫次第だと思いますが、聖パウロカトリック教会の方に繋がっているイメージを演出しなければならぬと考えています。

事務局（小野寺）：

横軸の2本だけでも、しっかりとデザインした街路整備をする事でかなり雰囲気は変わると思います。公共空間がある程度良好に整備されると、沿道の街並みも自然と見直されます。2本の横軸と銀座通り（広い幅員部分）は、肝になってくると思います。

横島委員：

銀座通りの水路は、側溝ではなく、ベッヘレの様に中央に配置する事はできないでしょうか？V字の水路で自動車がまたげる様な形として中央に配置する方が面白いのではと思います。

事務局（小野寺）：

中央に水路を持ってくる案は福井県勝山市でもやろうとしています。もともとあった疎水を復活させる案ですが、やはり自動車が通れなくなる事に対する抵抗はあるようです。

軽井沢町（依田課長）：

銀座通りは県道なので、実際にはどのような反応があるかは分からない所があります。

事務局（小野寺）：

整備をさせて欲しいというスタンスであれば、可能性はあると思います。

中村委員長：

V字の水路の様に、自動車が通れる様な工夫ができれば、可能ではないかと思います。

横島委員：

水路をユニオンチャーチまで伸ばす事ができれば、一体感も生まれると思います。

中村委員長：

住民の方に納得してもらえる様に分かりやすい具体的な整備も盛り込んでおいた方が良いと思っています。

横島委員：

町としても、具体的なものも併せて示したいという強いリクエストがあります。

中村委員長：

全エリアの中でも旧軽井沢地区は象徴的で分かり易い整備が出来ると思います。

横島委員：

町長は早めに整備を行うとすると、どのエリアを第一候補と考えていますか？

藤巻委員：

旧軽井沢はこれまであまり手をつけて来なかった場所であり、起爆剤になる可能性はあると思っています。

横島委員：

同意を得やすい場所は、矢ヶ崎公園の整備だと思います。公園内なので、バリアはないと思います。どの場所に設定するかについては、年度内にいずれかのエリアデザインの具体的なイメージを出して欲しいとリクエストしている以上、今日の段階で事務局に伝えておいた方が、作業が進め易いと考えます。図面の出来上がり方法も違ってくると思います。

藤巻委員：

旧軽井沢か矢ヶ崎公園が良いかと思っています。

旧軽井沢の話になりますが、日本人別荘第1号と言われております「八田別荘」がございます。八田さんがこの別荘を手放されるようです。出来れば、町で買い上げて文化遺産として残したいと思っています。

横島委員：

この別荘を活用して、文化アカデミー拠点として良いと思います。

藤巻委員：

その辺りは、軽井沢会の集会所やユニオンチャーチもありますので、エリアとして残していく方向が良いと思います。

中村委員長：

軽井沢にある良い建築物を活用する事は重要な事であるが、民地と上手く共同して整備をしていく事は非常に難しい。

軽井沢町（依田課長）：

旧軽井沢には、「旧軽井沢」「商工会軽井沢支部」「銀座通り商店会」の3組織があり、一枚岩ではない状況です。「聖の道」を整備する事は、各組織が近づく良い案だと思います。

横島委員：

1案と2案（旧軽井沢と新軽井沢）は同時進行という感じですか。

藤巻委員：

新軽井沢は、矢ヶ崎公園が中心の計画なので影響はないかと思っています。旧軽井沢も、避暑地としての別荘地である歴史的なものを再整理し、全体として良い空間を創出する事ですので、問題ないと思います。

軽井沢は「会議都市」を目指しています。新軽井沢を「会議都市」として位置づけられないかと考えています。新軽井沢は駅があり、大賀ホール、プリンスホテル等があります。駅から歩けない距離ではない所に万平ホテルもあります。軽井沢駅周辺のバスターミナルやしなの鉄道の線路用地を上手く活かして公営の会議機能を落とし込めればより良いと考えています。町から離れた場所に創るのではなく、現在ある施設を活用しながら、町を巡る仕組みの会議都市ができれば、経済波及効果に繋がるのではないかと考えています。

横島委員：

町長がおっしゃった様に、国際コンベンションホールの構想が新軽井沢にあったとしても、矢ヶ崎公園を何らかの形でデザインアップする事は、事業の合理性も考えても、ファーストステップとして張り出し部分だけでも創る事は町民に対しての説得力としても非常に高いと思います。その点からしても、やはり矢ヶ崎公園の整備が先ではないかと思っています。

藤巻委員：

会議施設を矢ヶ崎公園内につくる事も考えられると思います。前町長の時に、公園内に美術館を建てる計画もありましたが、もう少し大賀ホールと連動した形で公園内を活用できれば、将来的にユニークな会議空間ができるのではないかと思います。様々な使い方ができる様になれば良いと思います。

横島委員：

会議空間としても含めて施設を入れて置く事は、その他の計画を阻害する様なものではないと思います。都市デザインとしても非常に分かり易いものになるのではないかと思います。

軽井沢町（依田課長）：

その様な考えがあるのならば、現在ある公民館は、場所を変えて良いと思います。

事務局（小野寺）：

公園角地の良い場所（エントランス部）に立地しているので、公民館機能と併せてもった形で改築、または公園内の別の場所に建てる事も考えられると思います。

横島委員：

2 地区を同時進行で進めるとイメージがまとまらないと思います。順序だてを差し上げないと、事務局の作業能率が下がるのではないかという心配があります。

事務局（小野寺）：

スケジュール（案）では、グランドデザイン（案）とエリアデザイン（案）の意見交換を来年度の早い段階で実施する事になっています。

軽井沢町（遠藤氏）：

町民に提示する資料作成に要する時間を考えて、5月にしています。

事務局（小野寺）：

時間が迫っているので、年度明けてすぐに作業に取りかかる必要があると思っています。

中村委員長：

中間報告はどこまで提示すれば良いのでしょうか。

軽井沢町（依田課長）：

中間報告は、支払関係に関する形、1年目に実施した報告という形で収めて頂ければ良いです。

中村委員長：

議会への説明は、中間報告とは別と考えて良いのでしょうか。

軽井沢町（依田課長）：

議会には別途で良いです。

中村委員長：

お時間があるならば、この様な議論ができる会議を新年度に1回実施した方が良いと思います。

横島委員：

この様な会議は、中身を議論する上で大事です。次回の3月24日は中間報告のまとめとして先生方のご報告し、改めて4月に議論する方向が良いと思います。事務局として中間報告の合意承諾を取り付ける必要がありますか。

事務局（護）：

次年度も適宜個別でも意見をお伺する事も含めて、中間報告はここまでの議論をまとめた事務報告のみ行い、合意頂く事にしたいと考えています。

横島委員：

年度の最後の会議となりますので、形式的となりますが、はじめだけはつけて頂きたいと思います。

中村委員長：

4月に入って可能ならば、企業（西武等）との意見交換も行いたいと思っています。

横島委員：

未来構想会議への出席は上げさとなりますが、この様な会議の場に出席頂く事は可能かと思えます。

軽井沢町（森室長）：

4月の町長スケジュールとして、14日（月）と21日（月）が可能です。→21日（月）で決定
5月以降の会議についても、まずは町長の日程を押さえる方向で進めさせて頂きたいと思えます。

軽井沢町（依田課長）：

会議以外に意見聴取や住民説明会があるが、実施するならば説明できる資料を作成してもらう必要があるのではないか。

軽井沢町（遠藤氏）：

現在のところ、8月下旬に住民説明会、各地区の意見聴取を5月下旬で検討しています。

事務局（小野寺）：

意見聴取は、地区毎ではなく全体でも良い気がしています。

事務局（森室長）：

平日の昼間は人が集まり難いので、夜1回の実施の方が良いかと思えます。

事務局（小野寺）：

適宜、必要な時には各地区での意見交換ができればと思えます。

中村委員長：

事実上は9月一杯で作業を終わらす必要があるという事になるのでしょうか。

事務局（小野寺）：

成果品は11月に収める事になっています。

中村委員長：

素案を9月にはまとめる必要があるという事です。

軽井沢町（森室長）：

住民説明会に提示する物は、絵なのか、コンセプト的な資料なのか、何になるのでしょうか。

事務局（小野寺）：

どちらでも可能です。矢ヶ崎は、スケッチと模型があれば分かり易いのではないかと思えます。

軽井沢町（森室長）：

意見交換の時に、「この様にして欲しい」という意見が出た場合はどうの様に対処するのでしょうか。

事務局（小野寺）：

良い意見の場合は、その場で模型を作り替える事もあると思えます。

中村委員長：

軽井沢の範囲としては、公民館まで入れた絵としておいて欲しい。

藤巻委員：

先程の先行するエリアですが、やはり新軽井沢の矢ヶ崎公園が先だと思えます。町民から要望がでて
いるのも新軽井沢の方です。

事務局（小野寺）：

ファーストインプレッションとしては、新軽井沢は良いと思えます。この様な計画である事を見て頂
く事が重要だと思えます。

藤巻委員：

50年、100年先の計画であるが、今から始まっている事を形で示す事は大事だと思います。

軽井沢町（依田課長）：

5月の意見聴取は必要でしょうか。

事務局（護）：

仕様書に記載されている項目をスケジュールに入れ込んでいます。具体的なやり方と詳細なスケジュールはこれから検討させて頂きたいと思います。

事務局（小野寺）：

意見聴取も住民説明会の言い方は違いますが、同じ様な内容になると思います。

軽井沢町（森室長）：

パブリックコメントの意見を盛り込んでいる事をしっかり伝えた方が良いと思います。

中村委員長：

我々の作業のその様な観点から一度整理した方が良いと思います。

事務局（護）：

エリア毎で仕上がりの精度が変わっても良いのでしょうか。

事務局（小野寺）：

現段階までは同じクオリティで出来ると思います。新軽井沢は、もう少し精密な模型を提示したり、絵をもう少し描きこんだり等は考えられると思います。

横島委員：

タイムラグが生じても1年間程度であるので、説明すれば問題ないかと思います。

軽井沢町（依田課長）：

軽井沢は一般的に、東地区、中地区、西地区、南地区と言われていますが、今回は西地区ではなく追分地区としています。追分以外で入っていない所から、自分の地区が入っていないという意見は出てくると思います。

中村委員長：

等高線が入っている地形図はありますか。特に早く進めるエリアに関しては、地形のアンジュレーションも分かる地図で検討できればと考えています。

軽井沢町（森室長）：

お渡しできる資料は、事務局にお渡しています。

事務局（上條）：

地形図も頂いているが、1/2500の地図ですので、アンジュレーションが分かる程、精密ではありません。

横島委員：

必要な資料提供と共に、中村先生や事務局に伝わっていない町の事前計画や進行中の計画は、早めに提示しておいた方が良いと思います。後からの修正では時間がもったいないです。

事務局（二井先生）：

あまり案を詰めすぎると、「なぜ新軽井沢か」等の意見が出て来るのではないのでしょうか。

横島委員：

そのご心配は大丈夫です。町民を説得できるかの責任は、町で果たします。

事務局（小野寺）：

南軽井沢は事務局案では風越のみをエリアとしていましたが、本日の議論の中で出ていた様にエリアは決定したいと思っています。

軽井沢町（森室長）：

現地視察で行った農村地帯と直売所から風越公園までひっくり返した形で一体的に考えて頂く事が一番良いと思っています。

軽井沢町（依田課長）：

直売所や風越公園の周辺の里山も含めて計画していただければと思います。例えば、桜の山にする等もあるかと思っています。

横島委員：

南地区は一番漠然としていましたが、その新しいテーマである「スポーツと農業」が種地として入っていますので、協議の経過の中から生まれた第5の場所としてエリアが位置づけられたという方向で進めて頂ければ、計画の盛り上げが上手くいくのではないかと思います。

軽井沢町（森室長）：

追分も中山道と木もれ陽の里という違ったテーマがあります。

横島委員：

どっちに比重がかかるかは、時間が解決してくれるのではないかと思います。

中村委員長：

茂沢は検討エリア内に入れなくても良いのでしょうか。

横島委員：

軽井沢町が茂沢も忘れていないという表明がどこかで記載できれば、今回は良いのではないかと考えています。

藤巻委員：

池に石を投げた時に水面に波紋が広がる様に、軽井沢全体ではなく、風越公園と直売所のエリアに石というトリガーを投げ、その影響が広がる形で良いと思います。

中村委員長：

軽井沢は別荘のイメージが強いが、農村風景も美しい。「農」は農産物だけでなく、農村もあります。農村のイメージも形に出せないかと考えています。

藤巻委員：

直売所は、農村のイメージも出したいと考えています。

事務局（護）：

次年度の会議の進め方をここで整理させて頂きたいと思っています。

軽井沢町（依田課長）：

これまでは全委員の皆様に参加頂いていた会議でしたが、4月以降は、議論の中で個別に意見交換が必要な時に協議する方向としたいと思います。

(以上)